

本資料の著作権は江戸川カタック社に帰属します。無断での複製・転載・配布・引用・改変・転用を固く禁じます。© 江戸川カタック社（主宰：林広貴）

初級Ⅱ 少年クリシュナ

テキストは理論→実践→神話／思想の順にならべてあります。

理論篇ではテンポやリズムの把握において最も重要な「裏拍」という概念について学びます。

実践篇では、基礎練習タタカールのティハイの開始位置をずらしていくものや、バートと呼ばれるリズム分割の遊び。

そして複数の振りを続けておこなうある種の「シリーズもの」を覚えます。

最後に「ガット」と呼ばれる優雅な足さばきが特徴の演目をひとつ学んで完了となります。

ここまで来ると相当楽しいと思いますので、がんばりましょう。

※ボルの表記はここからはアルファベット表記のみとします。

カタカナの読み仮名が必要な方は、印刷のうえ、入門・初級Ⅰと同様に書き込みを行ってください。

神話／思想篇では、「羅刹女プータナーの乳を吸って殺す話」「毒竜カーリヤの上で踊って手なづける話」のふたつを学びます。

裏拍／オフビートについて。

これは特にカタックやインド音楽に関する概念ではありませんが、リズム把握が肝であるカタックにとっては極めて重要な知識および技術と思われるので、ここに項目を設けた次第です。

俗に「リズム感」という言葉がありますが、これが指し示す能力の核心を捉えるならば、それは裏拍をとる力と言えると思います。

「リズム感」といういかにも完全に先天的な才能のように感じてしまいがちですが、裏拍をとる力というように少し分析的に考えると、これを知的な理解とトレーニングによって鍛えることが出来るものになります。

例えばタタカールを踏んでいてテンポが走ってしまう。休符をきちんと待つことができずリズムが壊れてしまう。

リズムのブロックが裏拍からはじまると、途端にこんがらがってしまう。

これらはすべて、「裏拍」という概念を理解していないこと、そしてそれを実践に落とし込めていないことに起因するものです。

ここでは概念の整理だけおこないます。実践は教室で、具体的な演目を練習するなかでやっていきましょう。

メトロノームでテンポを出します。ピッ ピッ ピッ ピッと音が鳴ります。

あるいは手を叩いてテンポを出します。パン パン パン パン と音が鳴ります。

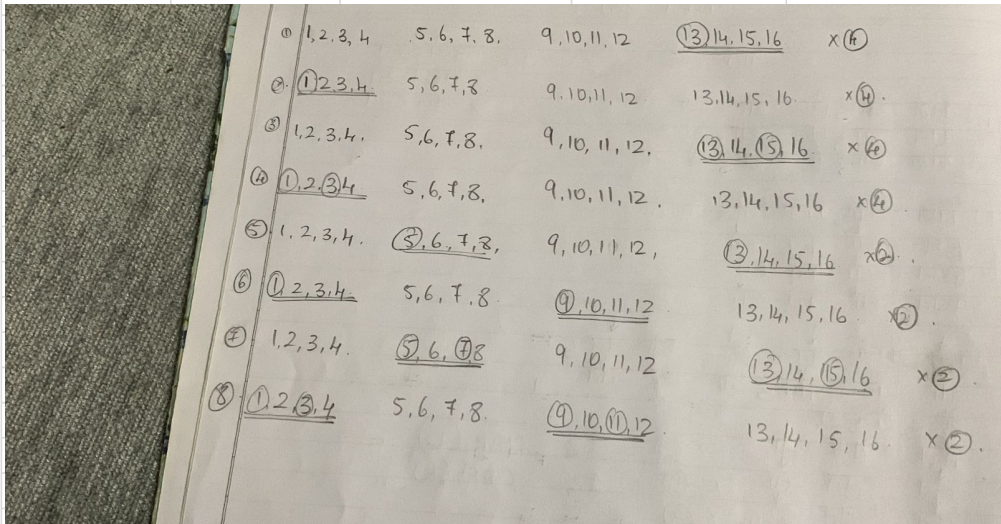
その音に合わせて頭を動かしたりします。これが「表拍」「オンビート」というものです。

テンポとは、拍と拍のあいだの長さによって決まります。そしてその間隔が一定であることが、テンポが一定であるということです。							
間隔がある以上これを分割することが出来ます。間隔がちょうど半分になるような区切る点を打つ。これが「裏拍」「オフビート」です。							
①テンポを維持するためには、裏拍を正確に感じていることが必要である。							
次に、リズムが裏拍から始まったり、あるいは裏拍で終わったりすることがよくあります。							
言い換えると、前者は「半拍待つ」こと、後者は「半拍伸ばす」ことです。							
例えば歌でも、始まりが少し早かったり、伸ばすべきところが途中で切れたりすると、気持ち悪く感じるものです。							
②正確に裏拍まで待つ、裏拍まで伸ばすことが出来ないと、動きのリズムがぼやけてしまう。							
またカタクにおいてはあるリズム構成を3度繰り返すことが頻出します。							
その1回目と3回目が表から始まり、2回目は裏から始まるというのは、よくあることです。							
ここで裏拍という概念を理解できておらず、裏からリズム構成をスタートさせる感覚に馴染んでいないと、途中でズレてしまってなんとなく進み最後の拍だけ強引に合わせる、みたいなことになります。							
③「裏拍をとる」ことが出来るようになると、世界が一変します。ひとによっては時間がかかると思いますが、じっくりやりましょう。							
タタカールのティハイ。第3，2，1ブロックから。							
基礎練習のタタカールの最後に行うティハイは、							
第4ブロックの頭＝13拍目から							
Tigdha DigDig Thai ×3							
これを、次のアバルタンでは第3ブロックの頭から、その次は第2（以下略）というように、							
開始位置を前にもってきて、それに比例してティハイを長くしていきます。							
「Tigdha DigDig（ティグダー ディグディグ）」の回数が増え、また休符が追加されます、休符の数も増えていきます。							
第3ブロックの頭＝9拍目から							
第2ブロックの頭＝5拍目から							
第1ブロックの頭＝1拍目から							
Tigdha dig dig ×2 Thai 1							
Tigdha dig dig ×3 Thai 1 2							
Tigdha dig dig ×4 Thai 1 2 3							
言葉で説明するとややこしいですが、やってみると楽しい数合わせです。							

バート／Baant／बॉट

バートとは原義が「分割」とか「分配」という意味です。
単独の演目というより、リズムのバリエーションをつくるひとつのやり方、みたいな理解でよいと思います。
大きく言えばタタカールのうちのひとつで、左右の足で均等に踏めるようにする練習になります。
以下は ①アクセントの位置及び ②アクセントの数をそれぞれずらし、増やすという操作を順に加えていくものです。
頭の体操として楽しいものです。

1	2	3	4	5	6	7	8
ek (エーク)	do (ドー)	teen (ティーン)	chaar (チャール)	paanch (パーンチ)	chhah (チェー)	saat (サート)	aath (アート)
9	10	11	12	13	14	15	16
nau (ナウ)	das (ダス)	gyaarah (ギャーラ)	baarah (バーラ)	terah (テーラ)	chaudah (チョーダ)	pandrah (パンドラ)	solah (ソーラ)



列	位置	数
1	第 4	1 回
2	第 1	1 回
3	第 4	2 回
4	第 1	2 回
5	第 2, 4	1 回
6	第 1, 3	1 回
7	第 2, 4	2 回
8	第 1, 3	2 回

2 トウクラ→3 ギンティ→3 トウクラ Teental Drut Laya

複数のちいさな演目を数珠つなぎに連続で行います。
これはとてもよいものです。初級 I で述べましたように、カタックのパフォーマンスの基本はティンタールの循環に演目を並べていくというものです。
したがって、このシリーズなどは完全に「パフォーマンス」と言っているものです。みなさんはダンサーを自称してよいわけです。

[illegible]

トウクラ		Teental Madhya Laya						
Tat Tat Tigdha Tig tig Tigdha Tig tig								
Tat Tat Thai ya Thai ya Kran								
Tat Tat								
Tigdha Tigtig Tigdha Tigtig								
Tat Tat Thai Ta Thai								
Tigdha Tigtig Tigdha Tigtig								
Tat Tat Thai Ta Thai								
Tigdha Tigtig Tigdha Tigtig								
Tat Tat Thai Ta Thai								
Ta ~ ta Thai Ta ~ ta Thai Ta ~ ta Thai								
Ta Thai								
チャクラダール・トウクラ ふたつ		Teental Madhya Laya						
Tat Tat Tigdha digdig Tigdha digdig		Tat Tat Tigdha digdig Tigdha digdig Thai ya Thai ya Kran						
Thai ya Thai ya kran		Tat Tat Tigdha digdig Thai ya Thai ya Kran						
Tat tat thai		Tat Tat						
Tat tat thai		Tigdha digdig Thai						
Tat tat thai		Tigdha digdig Thai						
3回繰り返す		Tigdha digdig Thai 1,2						
		3回繰り返す						
スィーディー・ガット／Sidhi Gat／सीधी गत		Teental Madhya Laya						
「スィーディー（Sidhi）」はヒンディー語で「まっすぐな」「シンプルな」を意味し、「ガット（Gat）」は「歩行」「身のこなし」を意味します。ガットというレパートリーの基礎となります。特徴に応じて Gat Nikas, Gat Bhavなどがあります。								
ガットはヌリッタ／ヌリティヤの分類ではヌリティヤ＝表現的ダンスに属します。								
初級Ⅱにしてヌリティヤが初登場となります。といって、スィーディー・ガットでは感情表現も物語もありません。								
ただ、優雅な足さばき・手のうごき・柔和な表情・柔らかな微笑み・精密な視線の移動などに意識を受けましょう。								

ガットに不可欠な要素として「チャール（Chaal）」と「パルタ（Palta）」があります。
チャールは様式化された歩き方、パルタは左右に半回転する動作を指します。
また、ガットは通常「ティハイ」で終わります。

Prelude with 1 avartan

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat

Ta Thai Thai Tat Aa Thai Thai Tat

Taa Thai Thai Tat

Tha~na Tigita Tatuna Kat Kat

Tat Taa Thai Thai ×2

Tat Taa Thai Tat Tat ×4

Tat Taa Thai Tat Aa Thai ×2

Thai

Tat Taa Thai Thai ×2 Tat

Ta thai thai tat ×4

thai thai thai tat Thai ×3

ここから5行、ボルの始まりがティーンタールの各ブロックの頭の1拍前から始まります。この先取りのカウント法（Anagatと言います）はカタックでしばしば登場しますので、ここでは「そういう構造もある」ということを、まず体で感じておきましょう。最後のTatで1拍足してブロックの頭に戻ります。

クリシュナ神話3 羅刹女プータナーの乳を吸って殺す話

クリシュナは、悪王カンサの魔の手から逃れて育てられていました。
しかしカンサはあきらめず、いつかクリシュナが自分を殺すという予言を恐れ、
恐ろしい羅刹女・プータナーに、赤子を殺すよう命じます。

プータナーは黒魔術を操る巨大な魔女で、
毒を塗った乳首で子どもを殺す力を持っていました。
彼女は美しい乙女に化けて各地を巡り、
次々に赤ん坊を奪っては殺していきます。

やがてクリシュナのいる村へたどり着いたプータナーは、
神々しい赤子の噂を聞き、「これこそ」と狙いを定めます。
美しい姿で村に現れた彼女を、村人は女神と信じ、
ヤショーダも彼女に乳を与えさせてしまいます。

プータナーがクリシュナに毒の乳を含ませると、
逆に彼女自身が力を吸い取られはじめました。



クリシュナの生気を吸い尽すクリシュナ

驚いたプータナーは正体を現し、空高く飛び上がって逃げようしますが、クリシュナはしっかり抱きついて離れません。

ついにプータナーは生気を吸い尽くされ、地上に落下して命を落しました。駆けつけた村人たちは、悪魔の亡骸の上で無事に遊んでいるクリシュナを見て、この子がただ者ではないことを悟ったのでした。

クリシュナ神話4 毒竜カーリヤの上で踊って手なづける話

ヤムナー川のほとりに、多くの頭を持つ毒蛇カーリヤが住みついていました。彼は神鳥ガルダの追跡から逃れるため、呪いのためにガルダが近づけないこの地にやって来たのです。

カーリヤの毒は強力で、川の水は泡立ち黒く染まり、村人たちは近づけませんでした。

ある日、クリシュナは仲間たちと川辺で遊んでいて、誤ってボールを水に落としてしまいます。皆が「川には恐ろしい蛇がいる」と止めるのも聞かず、クリシュナは川に飛び込みました。

やがてカーリヤが現れ、クリシュナに襲いかかります。俊敏に避けるクリシュナに怒ったカーリヤは、彼に巻きついて川の底へ引きずり込みました。しかしクリシュナは神力で巨大化し、あっさりと抜け出すと、カーリヤの尾をつかんで水上へ引き上げ、頭の上で踊り始めました。

その一步一步が宇宙の重みのようにカーリヤを苦しめ、ついに大量の毒と血を吐き出します。それを見たカーリヤの妻たちは、クリシュナに命乞いをしました。

カーリヤは自分の過ちを悟り、クリシュナがただの子どもではなく神の化身であることに気づきます。彼は二度と誰にも危害を加えないと誓い、クリシュナに許しを願いました。

クリシュナはこれを受け入れ、カーリヤに元の島・ラマナカへ戻るよう告げます。こうしてカーリヤは家族とともに去り、ヤムナー川は再び清らかに流れるようになりました。



👉カーリヤを懲らしめるクリシュナ